自分らしく生きる、を支える

～アドバンス・ケア・プランニング～

当院には、内科・外科それぞれの外来に「がん」と診断され、通院されている患者さんがいらっしゃいます。なかにはステージ４と診断され、完治が難しい状況のなかでも、抗がん剤治療を続けている方も少なくありません。

緩和ケアとは、「がんと診断された時点から、病気を治すための治療と並行して行われるケア」のことです。当院では、「緩和ケア外来」に通院されている患者さんだけでなく、一般外来に通われている患者さんにも、その方に寄り添った支援ができるよう努めています。

近年のがん治療では、病状が進行していても、外来に通いながら治療を続けられるケースが増えています。その一方で、限られた診察時間のなかでは、患者さんの「困りごと」や小さな変化に気づきにくいこともあります。

そのような時に力となるのが、当院の緩和ケア認定看護師です。診察の前後に患者さんやご家族のお話を伺い、小さな不安や困りごとを早めに見つけることで、医師・看護師・医療ソーシャルワーカーなど、多職種での支援につなげています。

たとえば、治療費や生活面への不安をきっかけに、医療ソーシャルワーカーによる相談支援につながることもあります。主に外来担当医からご紹介していますが、気になることがあれば、どうぞ担当医、看護師にご相談ください。
私自身も、診療のなかで患者さんに「これから、どのように過ごしていきたいですか」とお聞きするようにしています。

近年、厚生労働省も「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」の普及に取り組んでいます。これは、将来の治療や療養について、自分の希望や大切にしたいことを前もって考え、周囲の人と話し合っておく取り組みです。

健康なうちに考えることは難しいものです。しかし、がん治療を続けるなかで、「ペットがいるので、できるだけ家で過ごしたい」「親より先には死ねないので、できる限り治療を続けたい」など、ふとした思いをきっかけに、ご自身の気持ちを話してくださる方もいます。

私たちは、こうした対話を大切にしながら、患者さん一人ひとりが「自分らしく」過ごせるよう、お手伝いしていきたいと考えています。

小樽掖済会病院　緩和ケアチーム
外科担当医師　　野田　愛